

編集デスク <32>

佐藤得二氏の「女のいくさ」が直木賞を与えられた。64 才の狂い咲きの作家出発である。ちかごろは学生作家の出現もさかんで、わりあい若年作家の文壇登場がもてはやされていた。20 代か、時にはハイ・ティーンの職業作家の登場がジャーナリズムを賑わしたのである。佐藤氏の場合は、全くその反対である。いかに人間の寿命がのびたとはいえ、還暦すぎの文壇登場は異例である。

佐藤氏は文部省の社会教育局長もやった人である。局長のまえは督学官もやり、その前は一高の生徒主事でもあった。一高へくる前は京城大にいた。一高へ招いたのは、やはり京城大から来た安倍能成氏などの推せんがあったのであろうか。私が一

高の生徒であった頃は生徒主事であった。直接教えは受けなかったが、私は向陵時報の委員をしていたので、その原稿のことで生徒主事室では顔を合わせたことがある。その頃の生徒主事の親玉はのちに立教大総長にもなった佐々木順三氏であった。

「女のいくさ」と佐藤得二氏

——長谷川 泉——

佐藤氏にはその頃すでに「仏教の日本的展開」の書があった。思索的なものへのあこがれを持っている高校生には、哲学や、それに近い思想体系を持った先生は、それだけで何か信頼感があった。「仏教の日本的展開」を私は読まなかったが、著書を持ち、そしてガラッパチではある

が、みずからの思想体系を持っているようなこの丸坊主の佐藤主事は、生徒たちに人気があったようだ。

「女のいくさ」は大河小説であるという。明治大正昭和の3代にわたる理髪職人とその娘との親子の系譜を追ったものである。そのような構想の小説には、人生の年輪が必要であろう。若い作家では書けないものがにじみ出ている。鷗外の晩年の史伝がそうであったように。

漱石も、作家生活に入ったのは中年からであった。人生の表裏を味わいつくして、そして文学に定着されるもの——小説には作者の人生の年輪が必要であろう。闘病 10 余年にして再起し還暦後の第2の人生に入つて狂い咲きのような作家生活に入つたこの人生の老教師が、心身をいたわりながら、さらにすぐれた寄与をされることを期待したい。

ってきますね。パーセンテージで比較するばあいも同じで、たとえば 30%あるといいましても、3 人に一人のばあいもあり、300 人に 30 人のばあいもある。そうすると 30%といったって、ありがた味がひじょうに違う。そうすると 30%ある、10%あるといっても、だいぶあやしくなってくる。だいたい常識的には、3 人に一人を 30%とはいわない、ちょっとおかしいんですが、そんないみで数が多くなればたしかなんですけども、どのくらいたしかだろうかということを、念のために調べる方法があるわけですから、そんな方法はんたんですから、ちょっとご勉強なさればだいぶ気が強くなるということなんです。

比較を調べる方法、関係を調べる方法

質問 統計扱い上の初歩的常識ならそのへんでよろしいのでしょうか。

臼井 研究をする、ということは、今お話したように、これとこれとでどのくらい差があるか、実験して薬を飲ましたのと飲まないのとどのくらい平均値において差があるか、異なったふたつのものの対象を比較する方法がひとつと、もうひとつは、いろいろなものの関係を見ることです。た

えば網膜炎で尿にたん白が出る、たん白尿性網膜炎、それに萎縮腎ですか、網膜炎と腎臓の病気とはひじょうに関係が強いということになる。そのふたつの病気の関係が強いが強くないかということから入っていこうか、調べるキッカケを作ろうか、ふたつのものにどういう差があるか、ふたつのものの関係が強いかどうか、というようなやりかただとおもうんです。たいていどっちから入っていくことが多いでしょうね。ものを調べるときにはね。

そうすると、今いったように比較するときには、誤差の問題が入ってくる。数が少なければ誤差が大きくなる。むやみに、たしかに差があるといわれないようにするためには、今の比較の仕方を知ってれば便利なんです。

こんどは関係を見るという方法には、相関係数というものがあります。しかし、そんなもの知らなくたって図にかいてみれば関係が強いが弱いかわきたい見当がつかますから、そういう計算の方法もあるので、使えれば使ったほうが便利だろうと、そのへんまでのことはどの本にも書いてあるんです。それ以上むずかしいことはいらないと思うんですね。そんなものをお使いになれば鬼に